株式会社ふるさと鹿野経営状況報告書

1　法人概要

（1）名　　称	株式会社ふるさと鹿野
（2）目　　的	行政とともに推進していく第三セクターの民間組織として、温泉宿泊施設、特産品の製造、販売や飲食サービスの提供といった収益性の事業と、まちづくりや体験交流といった公益性の高い事業の取組による連関効果を図り、公民連携の企業経営を展開して、鹿野地域の活性化、雇用創出等の役割を担う拠点機能をめざしている。
（3）設立許可年月日	平成１６年　８月１７日
（4）設立登記年月日	平成１６年１０月　５日
（5）資　本　金	金３５,０００,０００円（うち鳥取市１７,５５０,０００円）
（6）役員構成	取締役７名　　監査役２名 代表取締役社長　長尾　裕昭
（7）事務所所在地	鳥取市鹿野町今市９７２番地１

2　令和４年度事業実施状況

核となる施設の「山紫苑」は、ウィズコロナ時代に向けた新たな旅のスタイルである『温泉ワ―ケーションの宿』を前面に集客に努めたこと、旅館再生専門のコンサルタントが策定した経営改善計画に基づいた改善の取組効果もあり、宿泊、休憩とも前年度に比べ増加し損益も約１,４００万円の改善となったが、コロナの影響は依然根強く、最終的に赤字計上となった。「温泉館」はWe Love山陰キャンペーン事業が追い風となり、利用者数が増え前年度に続き黒字を計上することができた。「そば道場」は、利用者がコロナ以前程度まで回復したこととあわせ、各種支援事業等を積極的に活用したことにより、黒字を計上することができた。対照的に、「そば処」は利用者数が予想に反し回復しなかったことに加え、人員不足による休館日の増加も重なり利益計上には至らなかった。「おもしろ市場」も高齢化に伴う出荷者減少の影響で、野菜類などの商品不足が常態化し、前年に続き赤字計上となった。「加工所」は、人件費を極力抑えるため期間限定でのとち餅と白餅の製造に留めたこととあわせ、委託製造している乾麺と半生麺の販売も奏功し、加工所として初めて黒字を計上することができた。「切花」は３月の彼岸の販売で最終利益を確保することができた。「農業部門」は農作業受託とともに、米、そば、レンコン、その他野菜類の売上が好調に推移したことと、国の交付金等の収入により５年連続で黒字計上となった。「鹿野往来交流館」は、コロナの影響により企画事業の中止や縮小を余儀なくされたが、「西いなばサイクルDAY」、「因伯名城跡巡りスタンプラリー」、「第２回昭和レトロ展」、「おでかけマルシェ」などのイベントを開催し好評を得た。会社全体としては、コロナ禍の影響が残る厳しい経営環境ではあったが、山紫苑をはじめとする赤字部門を、温泉館、そば道場などの黒字部門で補うことができ、わずかではあるが黒字を計上することができた。

３　令和４年度決算書

（１）貸借対照表（令和５年３月３１日）現在

（単位：円）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
１　流動資産	**108,808,260**	**３　流動負債**	**33,928,926**
（１）現金	1,700,192	（１）買掛金	13,008,833
（２）預貯金	75,529,179	（２）未払い費用	12,983,178
（３）未収金	18,335,657	（３）預り金	478,567
（４）棚卸資産	13,223,232	（４）納税充当金等	232,500
（５）前払費用	0	（５）前受金	0
（６）仮払金	20,000	（６）仮受金	31,248
（７）立替金	0	(7) 未払消費税	7,194,600
		(8) 短期借入金	0
		４　固定負債	**145,352,000**
		（１）長期借入金	145,352,000
２　固定資産	**26,803,228**		
		負債合計	**179,280,926**
（１）有形固定資産	25,403,228		
（２）無形固定資産	0	**５　資本の部**	**△ 43,669,438**
（３）投資その他資産	1,400,000	（１）資本金	35,000,000
		（２）自己株式	△ 2,000,000
		（３）別途積立金	49,000,000
		（４）当期未処理欠損	125,669,438
資産合計	**135,611,488**	**負債資本合計**	**135,611,488**

（２）損益計算書（令和４年４月１日～令和５年３月３１日）

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
Ⅰ　営業損益の部		Ⅲ特別損益の部	0
1営業収入	335,578,323	1特別利益	0
2売上原価	77,256,528	2特別損失	0
３売上総利益	258,321,795	（1）その他特別損失	0
４販売費及び一般管理費	275,021,141	（2）固定資産除却損	0
（1）人件費	148,268,745		
		Ⅳ税引前当期利益	749,585
（2）事業費	120,656,012		
		Ⅴ法人税及び住民税	232,500
(4)諸税負担金	1,081,207		
		Ⅵ税引後当期利益金	517,085
（5）雑費	5,015,177		
		Ⅶ前期繰越欠損金	126,186,523
（6）施設使用負担金	0		
		Ⅷ当期未処理欠損金	125,669,438
4営業利益	△ 16,699,346		
Ⅱ営業外損益の部			
1営業外収益	19,264,568		
（1）受取利息	703		
（2）雑収入	19,263,865		
（3）受託料	0		
（4）貸倒引当金戻入	0		
2営業外費用	1,815,637		
（1）支払利息	1,788,290		
（2）雑損失	27,347		
3経常利益	749,585		

（３）財産目録

（１）貸借対照表の資産の部および負債の部と同一につき省略

（４）剰余金計算書

前期繰越欠損金	126,186,523 円
当期利益金	517,085 円
当期未処理欠損金	126,703,608 円

（５）剰余金処分計算書

別途積立金	49,000,000 円
次期繰越欠損金	175,703,608 円

4　令和５年度計画

核となる施設の山紫苑は、旅館再生専門のコンサルタントと経営改善に関する業務委託契約を結び、効率的かつ柔軟な販促体制を取り、収益確保に繋がるような経営体制の構築に努める。しかの温泉館はサウナブームを追い風に、新規顧客の獲得やリピーター確保に取り組む。そば道場・そば処については「鹿野十割そば」の美味しさをアピールし集客増を目指すとともに、乾麺・生麺の販売促進にも努める。おもしろ市場は、慢性的な商品不足の問題を出荷者運営協議会と協議し、早期課題解決に向けて取り組む。加工所は、令和４年度の取り組みを継続しつつ販売商品を吟味し、売上の向上を図り連続黒字を目指す。農業部門は、耕作放棄地の拡大が進み作業受託依頼が増加すると予測されるところではあるが、中長期的な農地経営ビジョンのもと連続黒字化を目指す。鹿野往来交流館「童里夢」は、他団体との連携を図りながら地域資源を活用したイベント等の開催と地域の情報発信に努め、地域の交流人口の拡大に努める。全部門を通して収益アップを図り連続黒字を目指す。

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
Ⅰ　営業損益の部		Ⅲ特別損益の部	0
1営業収入	369,656,000	1特別利益	0
2売上原価	97,343,000	1特別損失	0
3売上総利益	272,313,000		
4販売費及び一般管理費	276,919,000	Ⅳ税引前当期利益	3,480,000
(1) 人件費	144,310,000	Ⅴ法人税及び住民税	232,500
(2) 事業費	124,535,000	Ⅵ税引後当期利益金	3,247,500
(4)諸税負担金	1,074,000	Ⅶ前期繰越欠損金	125,669,438
(5) 雑費	7,000,000	Ⅷ当期未処理欠損金	122,421,938
(6) 施設使用負担金	0		
5営業利益	△ 4,606,000		
Ⅱ営業外損益の部			
1営業外収益	9,850,000		
(1) 受取利息	0		
(2) 雑収入	9,850,000		
(3) 貸倒引当金戻入	0		
2営業外費用	1,764,000		
(1) 雑損失	0		
(2) 支払利息	1,764,000		
3経常利益	3,480,000		